学校番号	3 1 3
------	-------

令和3年度 公民科

教科	公民	科目	倫理	単位 数	2単位	年次	3年次
使用教科書	「高校倫理	新訂版」	(実教出版)				
副教材等	「最新図説	倫理」	(浜島書店)				

1 担当者からのメッセージ(学習方法等)

- ・人生の意味や意義について、普段はあまり考えることもないかもしれないが、先哲の思想や思 考の学習を通じて、「善く生きることとは?」「幸福とは?」といった問いかけを自らになげ かけてみよう。
- ・主体的な自己を確立すること、他者と共に生きることを、ともに自己の課題として意識しよう。

2 学習の到達目標

- 1. 青年期の課題と、人間としての生き方について、古今東西の諸思想の学習を通して理解と思索を深める。
- 2. 主体としての自己の確立をめざして、とくに人間の尊厳についての倫理的な考え方を学ぶ。
- 3. 現代社会の倫理的な課題について、主体的に考え、公正に判断する能力を養う。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
	人間尊重の精神と生	自己の確立と他者と	青年期における自己	青年期における自
	命への畏敬の念に基	の共生について、広	形成や人間としての	己形成や人間とし
	づき、青年期におけ	く課題を見出し、人	生き方に関する諸資	ての生き方に関す
₩ □	る自己形成について	間の存在や価値につ	料を様々なメディア	る基本的な事柄を
観点	の関心を高める。自	いて多面的・多角的	を通して収集し、有	理解し、人格形成に
\mathcal{O}	己の確立と他者とと	に考察するととも	用な情報を適切に選	生かす知識として
趣旨	もに生きる意欲を持	に、良識ある市民と	択し、自己の確立と	身につけている。
	ち、社会の諸課題を	して広い視野に立ち	他者との共生に資す	
	探求する態度を身に	公正に判断し、その	るよう活用してい	
	つける。	過程や結果を適切に	る。	
		表現している。		
	ワークシート	定期考査	定期考査	定期考査
	レポート	ワークシート	ワークシート	
評価				
価方法				
法				

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

学単			主な評価の観点			点		
期	単元名	学習内容	a	b	С	d	単元(題材)の評価規準	評価方法
	Ì	第1章 青年期の意義と課題					a:人生における哲学・宗教の持	ワークシート
		第2章 人間としての自覚					つ意義に対する関心を深め、そ	定期考査
		第1節 ギリシア思想	0	0	0	0	れらが投げかける自己や人間	
		ソクラテス、プラトン					存在の意味や価値について主	
		アリストテレス、ヘレニズム					体的に考えようとしている。	
		第2節 キリスト教	0	0	0	\circ	b:ギリシア思想・キリスト教・	
		ユダヤ教、イエス、キリスト教					イスラーム・仏教・中国思想な	
	書	第3節 イスラーム教	0	0	0	0	どの考えを手がかりに、人間と	
前	青年期の	第4節 仏教	0	0	0	\circ	しての生き方について広い視	
		バラモン教、原始仏教、					野で主体的かつ公正に判断し	
期	課題と人	大乗仏教					ている。	
	と人	第5節 諸子百家の思想	0			0	c:源流思想について資料集な	
	間の						どを手がかりにするほか、図書	
	の自覚						館や美術館・博物館などで資料	
	<i>7</i> E						を探索し、学習に役立つ情報を	
							主体的かつ適切に選択し活用	
							している。	
							d:ギリシア思想・キリスト教・	
							イスラーム・仏教・中国思想な	
							どの基本的な用語や概念を正	
							しく理解し、人格形成に生かす	
							知識として身につけている。	

		第1年 十少日十十五日担					-・日本の国しめた体・の思う	17 50 / 1
		第1節 古代日本人の思想					a:日本の風土や伝統への関心	ワークシート
		日本の風土と人々の生活	0			0	を深め、日本人の人間観、自然	定期考査
		神とのかかわりと道徳観	0	0	0		観、宗教観などの特質について	レポート
		第2節 日本の仏教思想					意欲的に探求し、国際社会に生	
		仏教の受容		0	0		きる主体性のある日本人のあ	
		鎌倉仏教		0	0	0	り方を考えようとしている。	
		第3節 近世日本の思想					b:古典や生活習慣を元に、日本	
		江戸時代の儒学	0		0	0	の風土や伝統の上にどのよう	
	日	国学の形成		0	0	0	にして外来思想が受容され吸	
24,	本	民衆の思想、幕末の思想	0		0		収されていったのか多面的・多	
前	人としての自覚	第4節西洋思想の受容と展開					角的に考察し、またその考察の	
	して	啓蒙思想と自由民権運動		0	0		結果を様々な方法で表現する。	
期	の自	キリスト教の受容		0	0		c:古典作品の読解や神社仏閣	
	覚	 国家主義と社会主義		0			などの訪問など、日本人の自然	
		近代的自我の確立	0	0	0	0	観や宗教観の特質についての	
		その他の思想			0	0	理解を深められる資料を選択	
		C + 2 L + 2 / L / L					し活用できる。	
							d:現代日本社会に息づく日本	
							の伝統文化や、日本的に受容さ	
							れた外来思想についての知識	
							を身につけ、自己の人格形成に	
							を対につけ、自己の人権形成に生かす。	
		第1年 1月の黄光					a:現代に生きる人間が直面す	ワークシート
		第1節 人間の尊厳						
		ルネサンスと宗教改革		0	0	0	る諸課題に対する関心を高め、	定期考査
		ルネサンスと宗教改革 第2節 科学技術と人間		0	0		る諸課題に対する関心を高め、 倫理的視点から意欲的に追究	
		ルネサンスと宗教改革 第2節 科学技術と人間 近代の自然観	0	0	0	0	る諸課題に対する関心を高め、 倫理的視点から意欲的に追究 し、他者との共生について考え	
		ルネサンスと宗教改革 第2節 科学技術と人間 近代の自然観 経験論と合理論	0	0	0		る諸課題に対する関心を高め、 倫理的視点から意欲的に追究 し、他者との共生について考え ようとしている。	·
		ルネサンスと宗教改革 第2節 科学技術と人間 近代の自然観 経験論と合理論 第3節民主社会と自由の実現				0	る諸課題に対する関心を高め、 倫理的視点から意欲的に追究 し、他者との共生について考え ようとしている。 b:ルネサンス以後の西洋思想	·
		ルネサンスと宗教改革 第2節 科学技術と人間 近代の自然観 経験論と合理論 第3節民主社会と自由の実現 社会契約説	0	0	0	0	る諸課題に対する関心を高め、 倫理的視点から意欲的に追究 し、他者との共生について考え ようとしている。 b:ルネサンス以後の西洋思想 の形成と展開を多面的に考察	·
	п	ルネサンスと宗教改革 第2節 科学技術と人間 近代の自然観 経験論と合理論 第3節民主社会と自由の実現 社会契約説 カントとヘーゲル				0	る諸課題に対する関心を高め、 倫理的視点から意欲的に追究 し、他者との共生について考え ようとしている。 b:ルネサンス以後の西洋思想 の形成と展開を多面的に考察 し、自己の生き方とどう関わる	
	現代	ルネサンスと宗教改革 第2節 科学技術と人間 近代の自然観 経験論と合理論 第3節民主社会と自由の実現 社会契約説	0	0		0	る諸課題に対する関心を高め、 倫理的視点から意欲的に追究 し、他者との共生について考え ようとしている。 b:ルネサンス以後の西洋思想 の形成と展開を多面的に考察	·
	現代に生	ルネサンスと宗教改革 第2節 科学技術と人間 近代の自然観 経験論と合理論 第3節民主社会と自由の実現 社会契約説 カントとヘーゲル	0	0		0	る諸課題に対する関心を高め、 倫理的視点から意欲的に追究 し、他者との共生について考え ようとしている。 b:ルネサンス以後の西洋思想 の形成と展開を多面的に考察 し、自己の生き方とどう関わる	
	現代に生きる	ルネサンスと宗教改革 第2節 科学技術と人間 近代の自然観 経験論と合理論 第3節民主社会と自由の実現 社会契約説 カントとへーゲル 第4節 社会と個人	0	0		0 0	る諸課題に対する関心を高め、 倫理的視点から意欲的に追究 し、他者との共生について考え ようとしている。 b:ルネサンス以後の西洋思想 の形成と展開を多面的に考察 し、自己の生き方とどう関わる かを広い視野にたって主体的	·
後	現代に生きる人間	ルネサンスと宗教改革 第2節 科学技術と人間 近代の自然観 経験論と合理論 第3節民主社会と自由の実現 社会契約説 カントとヘーゲル 第4節 社会と個人 功利主義	0 0	0		0 0	る諸課題に対する関心を高め、 倫理的視点から意欲的に追究 し、他者との共生について考え ようとしている。 b:ルネサンス以後の西洋思想 の形成と展開を多面的に考察 し、自己の生き方とどう関わる かを広い視野にたって主体的 かつ公正に判断している。	·
	間の	ルネサンスと宗教改革 第2節 科学技術と人間 近代の自然観 経験論と合理論 第3節民主社会と自由の実現 社会契約説 カントとへーゲル 第4節 社会と個人 功利主義 社会主義	0 0	0 0		0 0	る諸課題に対する関心を高め、 倫理的視点から意欲的に追究 し、他者との共生について考え ようとしている。 b:ルネサンス以後の西洋思想 の形成と展開を多面的に考察 し、自己の生き方とどう関わる かを広い視野にたって主体的 かつ公正に判断している。 c:西洋思想の形成と展開に関	·
後期	間	ルネサンスと宗教改革 第2節 科学技術と人間 近代の自然観 経験論と合理論 第3節民主社会と自由の実現 社会契約説 カントとヘーゲル 第4節 社会と個人 功利主義 社会主義 実存主義	0 0	0 0		0 0	る諸課題に対する関心を高め、 倫理的視点から意欲的に追究 し、他者との共生について考え ようとしている。 b:ルネサンス以後の西洋思想 の形成と展開を多面的に考察 し、自己の生き方とどう関わる かを広い視野にたって主体的 かつ公正に判断している。 c:西洋思想の形成と展開に関 して資料集を手がかりにする	·
	間の倫	ルネサンスと宗教改革 第2節 科学技術と人間 近代の自然観 経験論と合理論 第3節民主社会と自由の実現 社会契約説 カントとヘーゲル 第4節 社会と個人 功利主義 社会主義 実存主義 第5節 人間への新たな問い	0 0	0 0 0		0 0 0	る諸課題に対する関心を高め、 倫理的視点から意欲的に追究 し、他者との共生について考え ようとしている。 b:ルネサンス以後の西洋思想 の形成と展開を多面的に考察 し、自己の生き方とどう関わる かを広い視野にたって主体的 かつ公正に判断している。 c:西洋思想の形成と展開に関 して資料集を手がかりにする ほか、図書館や美術館などでも	·
	間の倫	ルネサンスと宗教改革 第2節 科学技術と人間 近代の自然観 経験論と合理論 第3節民主社会と自由の実現 社会契約説 カントとへーゲル 第4節 社会と個人 功利主義 社会主義 実存主義 第5節 人間への新たな問い 理性への反省	0 0 0	0 0 0 0 0			る諸課題に対する関心を高め、 倫理的視点から意欲的に追究 し、他者との共生について考え ようとしている。 b:ルネサンス以後の西洋思想 の形成と展開を多面的に考察 し、自己の生き方とどう関わる かを広い視野にたって主体的 かつ公正に判断している。 c:西洋思想の形成と展開に関 して資料集を手がかりにする ほか、図書館や美術館などでも 資料を探索し、先哲の思想や人	·
	間の倫	ルネサンスと宗教改革 第2節 科学技術と人間 近代の自然観 経験論と合理論 第3節民主社会と自由の実現 社会契約説 カントとヘーゲル 第4節 社会と個人 功利主義 社会主義 実存主義 第5節 人間への新たな問い 理性への反省 異質なものへのまなざし	0 0 0	0 0 0 0 0			る諸課題に対する関心を高め、 倫理的視点から意欲的に追究 し、他者との共生について考え ようとしている。 b:ルネサンス以後の西洋思想 の形成と展開を多面的に考察 し、自己の生き方とどう関わる かを広い視野にたって主体的 かつ公正に判断している。 c:西洋思想の形成と展開に関 して資料集を手がかりにする ほか、図書館や美術館などでも 資料を探索し、先哲の思想や人 生を自らの思索を深めるため	·
	間の倫	ルネサンスと宗教改革 第2節 科学技術と人間 近代の自然観 経験論と合理論 第3節民主社会と自由の実現 社会契約説 カントとへーゲル 第4節 社会と個人 功利主義 社会主義 実存主義 第5節 人間への新たな問い 理性への反省 異質なものへのまなざし 第6節 社会参加と幸福			0		る諸課題に対する関心を高め、 倫理的視点から意欲的に追究 し、他者との共生について考え ようとしている。 b:ルネサンス以後の西洋思想 の形成と展開を多面的に考察 し、自己の生き方とどう関わる かを広い視野にたって主体的 かつ公正に判断している。 c:西洋思想の形成と展開に関 して資料集を手がかりにする ほか、図書館や美術館などでも 資料を探索し、先哲の思想や人 生を自らの思索を深めるため に活用している。	·
	間の倫	ルネサンスと宗教改革 第2節 科学技術と人間 近代の自然観 経験論と合理論 第3節民主社会と自由の実現 社会契約説 カントとヘーゲル 第4節 社会と個人 功利主義 社会主義 実存主義 第5節 人間への新たな問い 理性への反省 異質なものへのまなざし 第6節 社会参加と幸福 生命への畏敬と非暴力			0		る諸課題に対する関心を高め、 倫理的視点から意欲的に追究 し、他者との共生について考え ようとしている。 b:ルネサンス以後の西洋思想 の形成と展開を多面的に考察 し、自己の生き方とどう関わる かを広い視野にたって主体的 かつ公正に判断している。 c:西洋思想の形成と展開に関 して資料集を手がかりにする ほか、図書館や美術館などでも 資料を探索し、先哲の思想や人 生を自らの思索を深めるため に活用している。 d:西洋思想の形成と展開につ	·
	間の倫	ルネサンスと宗教改革 第2節 科学技術と人間 近代の自然観 経験論と合理論 第3節民主社会と自由の実現 社会契約説 カントとヘーゲル 第4節 社会と個人 功利主義 社会主義 実存主義 第5節 人間への新たな問い 理性への反省 異質なものへのまなざし 第6節 社会参加と幸福 生命への畏敬と非暴力			0		る諸課題に対する関心を高め、 倫理的視点から意欲的に追究 し、他者との共生について考え ようとしている。 b:ルネサンス以後の西洋思想 の形成と展開を多面的に考察 し、自己の生き方とどう関わる かを広い視野にたって主体的 かつ公正に判断している。 c:西洋思想の形成と展開に関 して資料集を手がかりにする ほか、図書館や美術館などでも 資料を探索し、先哲の思想や人 生を自らの思索を深めるため に活用している。 d:西洋思想の形成と展開につ いて、現代社会でも用いられる	·
	間の倫	ルネサンスと宗教改革 第2節 科学技術と人間 近代の自然観 経験論と合理論 第3節民主社会と自由の実現 社会契約説 カントとヘーゲル 第4節 社会と個人 功利主義 社会主義 実存主義 第5節 人間への新たな問い 理性への反省 異質なものへのまなざし 第6節 社会参加と幸福 生命への畏敬と非暴力			0		る諸課題に対する関心を高め、 倫理的視点から意欲的に追究 し、他者との共生について考え ようとしている。 b:ルネサンス以後の西洋思想 の形成と展開を多面的に考察 し、自己の生き方とどう関わる かを広い視野にたって主体的 かつ公正に判断している。 c:西洋思想の形成と展開にする ほか、図書館や美術館などでも 資料をを事らの思索を深めるため に活用している。 d:西洋思想の形成と展開についる。 は、数で変数を変数を変数を変数を変数を変数を変数を変数を変数を変数を変数を変数を変数を変	·
	間の倫	ルネサンスと宗教改革 第2節 科学技術と人間 近代の自然観 経験論と合理論 第3節民主社会と自由の実現 社会契約説 カントとヘーゲル 第4節 社会と個人 功利主義 社会主義 実存主義 第5節 人間への新たな問い 理性への反省 異質なものへのまなざし 第6節 社会参加と幸福 生命への畏敬と非暴力			0		る諸課題に対する関心を高め、 倫理的視点から意欲的に追究 し、他者との共生について考え ようとしている。 b:ルネサンス以後の西洋思想 の形成と展開を多面的に考察 し、自己の生き方とどう関わる かを広い視野にたって主体的 かつ公正に判断している。 c:西洋思想の形成と展開にする ほか、図書館や美術館などでも 資料をを事らの思索を深めるため に活用している。 d:西洋思想の形成と展開についる。 は、数で変数を変数を変数を変数を変数を変数を変数を変数を変数を変数を変数を変数を変数を変	·

		第1節 生命の倫理	0	0	0	0	a:現代の諸課題から、関心のあ	ワークシート
							る問題を積極的に選択し意欲	定期考査
		第2節 環境の倫理	0	0	0	0	的に探究する。	レポート
							b:現代の諸課題を自己の課題	グループ発
		第3節 家族の課題	0	0	0	0	とつなげて多面的多角的に考	表
							察し、自己の行き方について広	
		第4節 地域社会の課題	0	0	0	0	い視野に立ち主体的に判断す	
	現代						る。考察結果をレポートし、発	
後	が諸	第5節 情報化社会の課題	0	0	0	0	表や討論などを通じて伝え、ま	
#1	課						た他者の意見や批判に耳を傾	
期	題と倫	第6節 文化と宗教の課題	0	0	0	0	ける。	
	理						c:現代の諸課題についての資	
		第7節 国際平和と人類の福	0	0	0	0	料をインターネットなどを通	
		祉の課題					じて収集し、主体的かつ公正に	
							情報を取捨選択する。	
							d:今日の諸課題を、自己の課題	
							とつなげて理解し、人格形成に	
							生かす知識として身につけて	
							いる。	

※ 表中の観点について a: 関心・意欲・態度b: 思考・判断・表現c: 資料活用の技能d: 知識・理解

※ 年間指導計画(例)作成上の留意点

・原則として一つの単元(題材)で全ての観点について評価することとなるが、学習内容(小単元) の各項目において特に重点的に評価を行う観点(もしくは重み付けを行う観点)について○を付けている。